

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目： 若手研究（スタートアップ）

研究期間： 平成 19 年度～平成 20 年度

課題番号： 19890207

研究課題名（和文） 周産期の家族機能と産後うつとの関連の検討

研究課題名（英文） Relationships between Family Function and Postpartum Depression.

研究代表者 新井陽子(ARAI YOKO)  
北里大学・看護学部・講師  
研究者番号：90453505

## 研究成果の概要：

本研究の目的は、妊娠各期（妊娠初期、妊娠中期、妊娠後期）における家族機能とメンタルヘルスの関連を明らかにすることである。妊婦 450 名に自記式調査用紙を配布し、395 名から得た結果、妊婦の抑うつ及び不安には家族機能の情緒的側面が関連していることが傍証された。交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
19 年度	500,000	0	500,000
20 年度	270,000	81,000	351,000
年度			
年度			
年度			
総計	770,000	81,000	851,000

## 研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

## 1. 研究開始当初の背景

産後うつに罹患した母親は、子どもの成長発達に影響を及ぼし、更には虐待・ネグレクトとの関連も報告されている。このようなことから、産後うつ病への対応が急がれている。これまで家族関係が産後うつに関連していることが明らかになっているが、本邦においての研究はこれまでに散見する程度である。

## 2. 研究の目的

妊娠初期から育児期までの家族機能の変化について明らかにし、その家族機能が産褥婦の産後うつにどのように影響しているのかを明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

妊婦 450 名に自記式調査用紙を配布した。測定尺度は、家族機能を家族アプガールスケール(FAS)、Family Assessment Device(FAD)、メンタルヘルスを Hospital Anxiety Scale(HAD)を用いた。

## 4. 研究成果

395 名(87.7%)から回答を得た。最初に、産科歴による比較を行った。初産婦は経産婦と比較したところ、初産婦は経産婦よりも不安が高い、初産婦は経産婦よりも家族機能が良好であると認識していた。さらに家族機能を詳しく分析すると、初産婦は経産婦より

も FAD の情緒的反応、全般的機能の 2 つの下位尺度において家族機能が良好であると認識していたが、行動統制は初産婦は経産婦に比べ、家族機能が低いと認識していた。次に、メンタルヘルス(不安・抑うつ)と家族機能の関連を検討した。メンタルヘルスは、HAD-A(不安)11 点以上を Definite cases、10 点未満を Non-cases とした。Definite cases は Non-cases よりも、情緒的関与が低いと認識していた。次に、HAD-D(抑うつ)11 点以上の Definite cases と 10 点未満の Non-cases を比較したところ、Definite cases は Non-cases よりも、情緒的反応、情緒的関与、行動統制、全般的機能が低いと認識していた。これらのことから、初産婦は経産婦に比べ、妊婦の抑うつ及び不安には家族機能が関連していることが示唆された。

5 . 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

(H21 年度、日本うつ病学会、日本母性衛生学会、日本家族看護学会にて発表予定で、現在抄録を提出している段階である。)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6 . 研究組織

(1)研究代表者

新井陽子(北里大学看護学部)

(2)研究分担者

(3)連携研究者